

記入日：令和2年7月14日

所在地（都道府県/市町村）：神奈川県 藤沢市		
法人名：社会福祉法人ひばり		
施設・事業所名：ハートピア湘南	担当者名：土肥 章良	
事業種類： 就労移行支援・就労継続支援B型		
主たる障害：知的	令和2年3月末現在 定員： 50人	
TEL:0466-81-1188	FAX:0466-81-1700	E-mail:a-dohi@shibari.or.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

<p>主たる事業内容は以下です。</p> <p>クリーニング作業</p> <p>ダンボール成形作業</p> <p>施設外就労 5社</p>

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

<p>4月13日～5月31日まで利用者に対して自宅待機とし、事業所を閉鎖した。</p> <p>ただし、職員は出勤しクリーニング作業や軽作業の受注作業を行い取引先との関係性を最低限ではあるが維持した。</p>

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

<p>事例タイトル：コロナウイルス持ち込まない対策</p> <p>取り組み内容：</p> <p>① 4月13日～5月31日までの事業所閉所</p> <p>② 毎日全員の検温実施</p> <p>③ 通所時の手洗い消毒の実施</p> <p>④ 昼食時の密接回避（食席を一定方向に向け、向き合わない。窓の開放・換気）</p> <p>⑤ 作業場にミスト導入し湿度の確保（飛沫防止）</p> <p>⑥ 利用者・職員に対しての布マスクを1人2枚提供</p> <p>⑦ 作業の量や収入確保を行うために受注は基本断らず全て受注し、利用者さんがいなくても職員で分担し行った。</p>
--

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

厚生労働省が打ち出している「3密状態を避ける。」とは言うものの、現状は3密であることを鑑みて出来ることを行うという発想で始めました。

工夫したことは、現状の職員配置で今まで行っていなかったことを行うために時間軸で誰が何を行えるかを考えて対応していくことを工夫した。毎日継続しなければならないので抜けがない様に工夫して毎日誰が何を行うかを役割分担して行っている。

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

現状、利用者職員共にコロナウイルス感染者は確認されておらず営業は行えている。

取り組みをして、利用者の衛生意識は高まり手洗い・消毒の習慣はついてきたと思われる。

売り上げは減少したが軽作業に関してはコロナウイルス流行前より売り上げは上がっている。しかしながら全体の収入は4月、5月は半分以下である。

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

上記に記載された湿度確保のため、ミスト散布のための機材を導入した。

経費 80万円

感染予防のためのマスクの配布で布マスク利用者・職員全員に2枚を配布した。

1枚600円を200枚購入 12万円

⑦ 今後の課題・展望

現状で東京都の感染率がどんどん増えており、事業所として再度自粛要請を出す基準を考えなければならない。前回は国の非常事態宣言に基づいて閉所を判断したが、今後国が非常事態宣言を出すかがわからないため、各自で自粛を促すタイミングが課題と考える。

また、作業に関しても、コロナウイルス流行前の様に戻るには時間が掛るため、何か対策や方向転換を考えていく必要性はあると思われる。何か新しい作業の導入や展開を考えて行動していきたい。



↓ミスト噴霧（湿度確保・暑さ対策）





